

2015 平和行動 in 長崎

戦後70年 未来につなぐ平和への想い

8月8日(土)15:30から長崎県立総合体育館・メインアリーナにおいて、「連合2015平和ナガサキ集会」を連合主催、原水禁・KAKKIN共催、また後援として18団体(行政・大学・平和団体等)に賛同いただき開催しました。全国より3,623名が参加する中、長崎から核兵器廃絶・恒久平和を訴えました。



【第1部】2015NPT再検討会議報告

連合長崎 森光一会長から核兵器廃絶の想いを込めた開会あいさつの後、連合 古賀伸明会長から主催者代表あいさつとして、今春のNPT再検討会議において最終文書が合意されなかったことに触れ、「NPT体制自体が揺らぐ結果になってしまったことは極めて残念な結果と言わざるを得ない。連合は、世界で唯一の被爆国のナショナルセンターとして、これまで以上に、核兵器廃絶に向けた国内世論の喚起に注力するとともに、ITUCともさらに連携を強化し、核兵器の悲惨さと非人道性を広く世界の仲間へ訴えていく。」と述べました。

引き続き、来賓として、長崎県中村法道知事、長崎市田上富久市長、国際労働組合総連合(ITUC)ウェリ

トン・チベベ書記長代行からそれぞれご挨拶をいただきました。

基調講演では長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の鈴木達治郎センター長を講師に招き、「NPT再検討会議報告 - 核兵器廃絶に向けての主要課題とRECNAの取り組み - 」と題し、世界の核兵器が今どういう状況なのか、今年のNPT再検討会議を終えて唯一の被爆国である日本はどのような責任を果たしていくべきなのか、といった内容で、講演いただきました。

続いて、今年のNPT再検討会議にあわせて連合より23名を派遣した「核兵器廃絶ニューヨーク行動」について、連合小川裕康副事務局長より報告を行いました。



開会あいさつ
連合長崎 森会長



主催者代表あいさつ
連合 古賀会長



来賓あいさつ
中村長崎県知事



来賓あいさつ
田上長崎市長



来賓あいさつ
国際労働組合総連合(ITUC)
ウェリントン・チベベ書記長代行



基調講演
長崎大学核兵器廃絶研究センター
鈴木センター長



連合派遣団報告
小川副事務局長

【第2部「次世代への継承」】

長崎平和推進協会継承部会の和田耕一さんより、爆心地から3kmの所で18歳の時に被爆した体験をお話いただきました。和田さんは当時、市内電車の運転手として勤務をしていましたが、同僚が被爆し亡くなっていく中、市電の復旧作業に従事をされました。その体験から、原爆の恐ろしさ・平和の大切さを訴えました。その後、平和広島代表团(代表：連合広島・山崎幸治事務局長)よりピースメッセージ、「若者からのメッセージ」として、ナガサキ・ユース代表团、高校生平和大使から、それぞれの立場での報告と決意表明がありました。

「愛・平和・いのち」をテーマにピアノ弾き語りによる音楽活動を行っている「吉岡しげ美」さんによる、ミニコンサート「詩(うた)い・つなぐ～生命と平和へのメッセージ」を行いました。女性委員山中長枝委員長が「ナガサキからの平和アピール」を読み上げ、満場一致で確認されました。その後、次の平和行動の地である根室へ平和の思いを託し、連合長崎・森光一会長(左)から連合北海道・岡島光行副事務局長(右)へピースフラッグリレーを行い、フィナーレとして「For The Peace Of World」を合唱し、平和ナガサキ集会を閉会しました。



被爆者の訴え 和田耕一様



平和広島代表团



高校生平和大使



ナガサキ・ユース代表团 荒倉様



コンサート「詩い・つなぐ」
吉岡しげ美様



ピースフラッグリレー



フィナーレ For The Peace Of Worldの合唱

ナガサキからの平和アピール

1945年8月9日、原子爆弾が長崎に投下され、熱線と爆風、恐るべき放射線により一瞬にして7万4千人余りの尊い命が奪われた。あれから70年の節目を迎えた今もなお、現存する核兵器は約1万6千発にも上り、人類はいまだ核兵器の脅威にさらされている。また、今もなお多くの被爆者が放射線障害に苦しんでいる。

前回の「2010核不拡散条約(NPT)再検討会議」において、核兵器の削減・廃絶に向けた一定の道筋が示されるとともに、昨年4月の「軍縮・不拡散イニシアチブ(NPDI)」外相会議では、核兵器の非人道性に対する国際的な賛同を得られるなど、近年の核兵器廃絶の動きには、大きな進展が期待された。

連合は原水禁、KAKKINと共に、本年4月に開催された「2015NPT再検討会議」にあわせ、ニューヨークでの平和行進やセミナーの開催など、さまざまな取り組みを展開してきた。また、「核兵器廃絶1000万署名」で集約した約720万筆の署名を、国際連合ならびに日本政府に提出し、核兵器廃絶に向けた今後のさらなる取り組みを要請した。

しかしながら、「2015NPT再検討会議」は、核保有国と非保有国との対立により合意には至らず、今後のNPT体制自体をも揺るがしかねない、きわめて残念な結果となった。核兵器のない世界に向けて、私たちはこれまで以上に、平和首長会議や国際労働組合総連合(ITUC)との連携を強化し、次回の「2020NPT再検討会議」に向けた世論の喚起や、その推進力となる「核兵器の非人道性」に関する訴えの発信など、国際的な働きかけを強めていかなければならない。

連合、原水禁、KAKKINの3団体は、核兵器を保有する国の駐日外国公館に対し、「核兵器廃絶」に向けた要請行動を継続的に展開してきた。また、全国で原爆写真ポスター展を開催し、核兵器の恐怖と非人道性を国内外に広く強く訴え続けてきたが、他方で原爆の恐怖を身をもって知る被爆者の高齢化が進み、平均年齢はすでに80歳を超えている。こうした現状を重く受け止め、連合は被爆援護施策のさらなる充実を求めるとともに、戦争の体験から核兵器廃絶を訴える「語り部」の想いを次世代へ継承する取り組みにも注力していく。

私たちは結成以来、組織一丸となって、平和首長会議や国際労働組合総連合(ITUC)、長崎平和推進協会、長崎大学、長崎外国語大学などの教育機関やNGO、行政等と連携し、現在の平和運動をつくり上げてきた。戦後70年を契機に、これまでに積み重ねてきた力を最大限に発揮し、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けたさらなる一步を踏み出さなければならない。本年の平和行動を、「2020NPT再検討会議」に向けた世論喚起や、核兵器禁止条約の発効に向けた新たな運動のキックオフと位置づけ、今後も職場や地域における核兵器廃絶運動に粘り強く取り組むことをここに宣言する。

2015年8月8日

「連合2015平和ナガサキ集会」

「ピースウォーク」

8月9日(日)14時から連合長崎青年委員会・女性委員会メンバーによる「ピースガイド」の案内で、爆心地公園・平和公園の8箇所のモニュメント・碑巡りを行いました。炎天下でのピース・ウォークとなりましたが、全国から約500人の参加がありました。



平和の泉清掃

7月25日(土)、連合長崎青年・女性委員会、構成組織組合員と家族、約80名の参加に加え、今年は連合大分から9名の参加もあり、平和公園内にある「平和の泉清掃」を行いました。

平和の泉は、1969年、KAKKIN(旧：核禁会議)の呼びかけによる国民カンパにより建設し、長崎市に寄贈しました。清掃は、以前はKAKKINが実施していたものを、1999年より連合長崎が引き継いで毎年実施しており、今年で17回目となりました。

参加者は、平和の願いを込め、デッキブラシやたわしを使い、平和の泉の中のコケなどの汚れを落としました。また、泉の中のお賽銭も拾い集めました。拾い集めたお賽銭は、きれいに洗い流し、後日原爆資料館へ納めることとしています。



参加していただいた皆さん

連合長崎平和キャラバン隊出発式

日本は世界で唯一の被爆国であり、広島と長崎から恒久平和を願い、8月5～6日に広島で開催される「連合2015平和行動in広島」へ平和キャラバン隊を編成し、街宣行動を展開しています。このキャラバン隊の出発式を8月3日(月)の12時40分から長崎市役所前で、13時から長崎県庁前で行いました。

<2015連合長崎キャラバン隊メンバー>

- 柳川 尚寛(青年委員会・基幹労連)
- 松竹 真一(青年委員会・長崎電気軌道労組)
- 大坪 千夏(青年委員会・全労金)
- 坂本久美子(女性委員会・自治労)
- 山崎 浩介(自治労)
- 鴨川 博明(連合長崎)



連合長崎青年員会柳川幹事の決意表明



連合長崎 森会長の激励



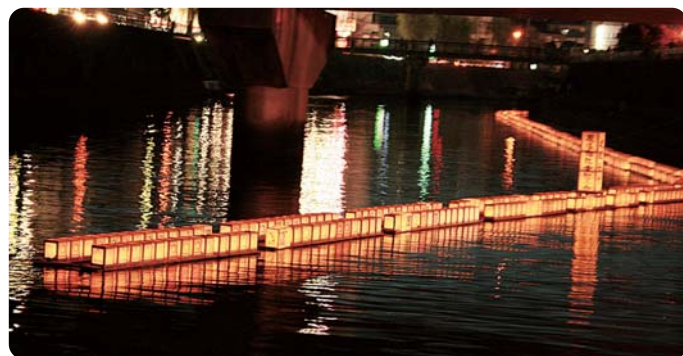
平和の願いを長崎から広島へ

万灯作成

8月9日(日) 19時から、原爆殉難者慰霊奉賛会、城山連合自治会と連携し、原爆犠牲者のめい福を祈る万灯流しを行いました。全国から参加した組合員・家族等が万灯に平和へのメッセージを書き込み、浦上川に流しました。今年はアルメニア共和国の子どもたちから、平和の願いを込めた灯ろうが届けられました。



アルメニア共和国から贈られた灯ろう



連合2015平和行動in広島

8月4日(火)～6日(木)に開催された「平和行動in広島」には、連合長崎から宮崎事務局長以下17人が参加しました。

4日(火)は現地で結団式を行い、5日(水)には、「ピースウォーク」、「連合2015平和ヒロシマ集会」へ参加しました。集会では高校生平和大使の活動報告があり、若者が平和のメッセージを世界に広げ、仲間とともに活動している姿が印象的でした。最後に「原爆死没者慰霊式」に参加し、水を求め亡くなったたくさんの人々のご冥福と世界の平和を祈って、献水・献花をしました。最終日の6日(木)は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島市主催)」と連合長崎が連合広島に1995年に寄贈した「平和の鐘打鐘式」に参加しました。



折鶴献納してきました



ピースウォークに参加



ピースフラッグ(広島から長崎へ)



◀ 長崎からのピースメッセージ

「平和の鐘」打鐘式にて ▶



東北の子ども応援わんぱくプロジェクト を開催しました！

「東北の子ども応援わんぱくプロジェクト」は、「大震災を忘れない、風化させない、その教訓をいかす」との思いを込め、「被災地の子どもたちに夢や勇気を持ってもらおう」、「全国の組合の仲間全体で被災地を支え、絆をつなぐ運動をしよう」という目的で昨年から全国の地方連合会で実施されています。今年は岩手(大船渡市)の子どもたち(17名)を8月1日～3日に長崎・佐賀で受け入れ、子どもたちの夏休みの思い出作りをしました。

1日目は、岩手の子どもたちだけでしたが、平和公園・原爆資料館を見学し、平和学習を行うとともに、岩手で作った折鶴を献納し黙祷を捧げました。

2日目からは、長崎の子どもたち11人と佐賀の子どもたち9人も合流して、三菱重工長崎造船所の見

学からスタート。大きな建造中の客船を見ることができて、みんなびっくりしていました。

午後からは佐賀に移動し、道の駅鹿島で「ミニ・ガタリンピック」(干潟体験)を楽しみました。最初は恐る恐る潟の中に入っていた子どもたちも、最後には全身泥だらけになり、「むつごろうガタスキー競争」「潟上綱引き」の競技に汗を流しました。

3日目は「チャイナ・オン・ザ・パーク」に向かい、有田焼の絵付け体験をしました。みんな真剣な顔で、マグカップに思い思いの絵を描いていました。

10月10日～12日は、今度は長崎・佐賀の子どもたちが岩手を訪問します。岩手のお友達と再会を果たし、また被災地の現状を実際に見て学んで来たいと思います。



岩手の子どもたち(平和公園にて)



潟の中で綱引き



絵付け体験(真剣です！)



10月は岩手で会いましょう！

2015年度長崎県最低賃金 694円(+17円)で結審!

2015年度長崎地方最低賃金審議会は、8月11日(金)第3回長崎地方最低賃金審議会を開催し、2015年長崎地方最低賃金が結審しました。当初、労働者側委員は本年の審議にあたって、①「地域における労働者の生計費および賃金水準」を重視すること、②物価の上昇、特に低所得労働者における物価上昇の影響に配慮すること、③憲法第25条、最低賃金法第1条、労働基準法第1条の趣旨に合致した最低賃金水準とすることを特に主張したうえで、本県の最低賃金が700円にも満たないところから、今年度目安(Dランク16円)に対し、当面700円への到達を達成するため今年度は23円の引き上げを主張。一方、使用者側は①県内の小規模事業所の支払い能力、②最低賃金の引き上げの基準はあくまでも第4表(一般労働者およびパート労働者の賃金

上昇率)を重視すべしとして、現行時間額を6円引き上げると主張しました。その後、3回にわたる専門部会を開催するなかで、労側最終主張を最下位からの脱出のため17円の引上を強く求めた結果、公益見解として目安プラス1円の17円の引き上げが示され、採決の結果、公・労側委員賛成、使側委員一部反対、で採決され結審、その後、長崎労働局長へ答申しました。



2015年10月7日から
長崎県の最低賃金は
694円になります!

**ろうきんの
キャッシュバック**

給与振込&キャッシュバックが、つ・かえる!

〈ろうきん〉カードなら、他の金融機関^{※1}やコンビニATMで利用された際の利用手数料を1回につき108円キャッシュバック^{※2}します。
○1回につき108円をご利用いただいた口座へ入金いたします。

どなたでも
他金融機関・コンビニATM
ご利用手数料をキャッシュバック!

**ろうきんの
福祉ローン**

医療費や育児、介護をサポート。大切な家族を支えるローンです。

ご融資金額 | 最高 **1,000** 万円 (1万円以上)(1万円単位)
※同一世帯、同一生計内の総限度額です。
ただし、育児・介護休業中の生活費は200万円以内となります。

ご返済期間 | **10** 年以内 (据置期間を含む)
※育児・介護休業中のみ元金滞り返済をご利用いただけます。

固定金利型 | 年 **1.0%**
※別途保証料(年0.7%または年1.2%)が必要となります。